

# 2014 年度 事業報告書

1. 2014 年度 事業報告(インド)
2. 2014 年度 事業報告(日本)

# 【2014年度 事業報告 (インド)】

## ▶ 学校教育

### ■ 事業の概要

「他者への思いやりの心を育てること」を教育の理念とし、現地パートナー団体トラストと連携を取り合いながら、貧困地域において学校教育を提供している。学力向上及び自立支援授業、教科書配布、制服支給、給食配給(週2日)をすべて無料で実施。

2003年よりブッダガヤ周辺の17の村々の最貧困層の子どもたちを対象に、学校教育を支援しており、これまでに10年間、年間約800名の子どもたちに、無償支援。授業料が払えない、制服や教科書を買うことができない子どもたちのために支援を行う。

地域の教育レベルの底上げに力を入れていくと同時に、経済的貧困が理由で進学・就職ができないという子どもたちを支援するために、義務教育の期間を終えるまで、学校教育を提供している。

教育面で特に力を入れているのが、英語、一般教養、そして国際交流である。世界情勢を幅広くとらえ、国境を越えた視野を持つことができるよう、世界各国からのボランティアを受け入れ、授業やワークショップに積極的に参加することで実践的なコミュニケーション能力を培う。

学校には、ヒन्दウー教、イスラム教、仏教、シーク教などさまざま宗教背景を持つ子どもたちが一同に学んでおり、すべてのカーストの子どもたちが分け隔てなく一緒に机を並べる。

### 2014年度の特徴:

- ・「子どもたちが積極的に学べる環境づくり」をモットーに、教員研修を実施。
- ・家庭訪問を強化し、学校に来ることができない子どもたちのケアを重点的に実施。
- ・朝の挨拶運動の実施。
- ・英語教育の強化。
- ・2015年度に向け、補講実施計画を作成)。

教科:英語、数学、ヒンディー語、サンスクリット語、科学、一般環境学、社会、

クラス:ナーサリー・プレナーサリー・LKG・クラス1-7

シニアクラス(クラス8-10 中学校2~3年生・高校1年生)(本校のみ)

コンピュータークラス (本校生徒並びに地域の15歳以上の若者が対象)

現在、生徒数は約750名。

### ■ 事業運営体制

運営体制	(日 本)事業担当1名、 (インド)事業担当 2名、教師 約12名、
予算規模	年間事業費 4,770,398円(NPWT トラスト運営費・学校事業費合計) ※当会からの寄付金 3,800,000円(学校・孤児院・無料診療所 合計)
主要財源	指定寄付(個人・団体)

## ■2014 年度の実績と成果

### (1) スクールバスプロジェクト

#### <活動実績>

2014 年 9 月実施

猛暑や豪雨、遠距離などの過酷な通学環境に対応するための支援を目的とし、クラウドファンディング「Ready For?」を利用し、スクールバスの資金集めを行った。目標金額を突破し、資金 120 万円を獲得。現地で、バスを 1 台(子ども最大 29 名乗車可能)購入した。(会員の加藤彩葉氏 協力)

#### <成果>

通学が比較的大変な地域に住む児童を対象に、送迎を開始した。現在、5 つの村から通う児童約 25 名が利用。バス利用料として、ひとりあたり毎月平均 150 ルピー(約 270 円)を徴収。

### (2) セーター贈呈プロジェクト

#### <活動実績>

2014 年 12 月実施

ニランジャンスクールに通う児童の中から無遅刻無欠席の児童を対象に、制服の上から着る冬用セーター30 着の配布を行った。(会員の高木瑞穂氏より 寄付)

#### <成果>

通学時や就学時の防寒対策になっただけでなく、子どもたちの通学意欲向上に繋がった。

### (3) テディ・ベアプロジェクト

#### <活動実績>

2015 年 3 月実施(スタディツアー内にて)

不要になった布で作ったテディ・ベアを寄贈。ニランジャンスクールの幼児クラスに通う子どもたち約 120 名に配布を行った。(株式会社フェリシモより 寄付)

#### <成果>

スタディツアー参加者と、子どもたちとの交流を深める良いきっかけになった。

## ■その他の活動報告

### 参加型プロジェクト(関西大学初等部 三宅貴久子 先生 協力)

2015 年 3 月 ニランジャンスクール教員とビハール州政府ガヤ市公立学校の教員 合計約 30 名に教員研修を実施。

---

## ➤ 孤児院

---

### ■事業の概要

家庭での養育が困難な男児が共同生活を送っている。前年度に1期生が孤児院を卒業。今年度は、新たにメンバーを迎え、男児25名。2015年3月、さらに3名が卒業。学校だけでなく、孤児院でも卒業式を行った。また孤児院卒業生を対象に、トラストから一定額の援助支援を開始。卒業生は支援を受けながら、自らで住む場所を見つけ、勉強を続けている。

### ■事業運営体制

運営体制	(日 本)事業担当1名、 (インド)事業担当2名、保父3名、調理1名
予算規模	年間事業費 781,817円(NPWT 事業費)
主要財源	指定寄付(個人・団体)

### ■2014年度の実績と成果

#### (1) 孤児に向けた取り組み

##### 物資支援プロジェクト

###### <活動実績>

2015年3月実施 (205,000円)

孤児や教師から現地に必要なものを事前にリサーチし、孤児院で使用する必要備品を購入した。

(関西大学初等部 三宅貴久子氏、ナマステニランジャナジャパン(NNJ)より 寄付)

###### <成果>

#### (2) 卒業生に向けた新たな取り組み

##### ①奨学金プロジェクト

###### <活動実績>

(通年) (月額50,000円 2015年3月開始)

孤児院卒業生を対象にした奨学金制度を導入。(NPO チームピースチャレンジャー 協力)

###### <成果>

卒業生のうち、現在10名が利用。奨学金を貰いながら、大学に通っている。

##### ②卒業アルバムプロジェクト

###### <活動実績>

2015年3月実施

今年度、孤児院を卒業する2名の児童を対象にした卒業アルバムを製作。入所から卒業間際の写真、本人たちの思い出手記などを掲載。卒業式にて贈呈した。

###### <成果>

孤児の里親支援プロジェクトの支援者の方々へ孤児院時代の生活の様子をアルバムを通してひとつの形として報告することができた。

卒業孤児にもアルバムを贈呈することで、孤児院卒業時代の思い出を振り返ることができる。

---

## ➤スジャータ・アシュラム

---

### ■事業の概要

女性の地位がまだまだ低い地域であるので、女性が技術を身につけ経済的な収入を得ることで、自信や誇りを持って生きていけるようにと始まったプロジェクト。2011年にスジャータ・アシュラムが完成。活動期間は3年。

裁縫教室、メヘンディ教室、ペイント教室、識字教室を実施。2014年度は、スジャータ・アシュラム自体の自立運営にむけて、制服プロジェクト、ぬいぐるみプロジェクトの取り組みを始めた1年であった。

### ■事業運営体制

運営体制	(日 本)コーディネーター1名、事業担当1名 (インド)事業担当1名、教師5名、用務員1名
予算規模	年間事業費 486,646円(NPWT 事業費)(当会寄付額 704,810円)
主要財源	一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会、ASIAN PUJA、チーム ピース チャレンジャー、nimai-nitai、指定寄付(個人)他

### ■2014年度の実績と成果

#### (1)裁縫・メヘンディ・ペイント・識字教室の実施

##### <活動実績>

2014年4月～2015年3月実施

お祭り期間とチーム ピース チャレンジャー、nimai-nitaiの生産期間を除く、月～土曜日午前中に教室を実施。合計50名の女性たちがアシュラムに通い、指導を受け、技術を身につけた。

##### <成果>

2014年4月より受講生から入学金を徴収するようになったため、より受講意欲の高い女性が集まるようになった。それまでは、途中でドロップアウトしてしまう女性が目立っていたが、減少傾向にある。さらに、寄付や助成金だけに頼っているアシュラムの運営面からみても経済的な安定や、本当に学びたい意欲のある女性たちが集中して取り組める環境づくりにもつながった。

#### (2)自立運営に向けた取り組み

##### ①制服プロジェクト

##### <活動実績>

2014年7月～8月実施

裁縫教室に通う女性15名(スジャータ村5名、バサリ村10名)がプロのテーラーから技術指導を受け、ニランジャンスクールのカラス6の生徒のシャツを制作した。

##### <成果>

・2か月間の制作期間の中で、シャツを作れるようになるだけでなく、採寸の仕方、型のあて方、布の裁断方法、ミシンのかけ方など、基本的な部分の技術のブラッシュアップにつながった。ただ、シャツは裁縫教室に通う女性たちにとってまだ難易度が高く、プロのテーラーのように縫えるようにはもう少し時間が必要。

##### ②ぬいぐるみプロジェクト

##### <活動実績>

2015年2～3月実施

講師をアシュラムに呼んで指導を受け、ぬいぐるみ(テディ・ベア、カメ、イヌ)を制作した。

##### <成果>

・裁縫教室に通う女性たちからの発案で始まったプロジェクト。技術を身につけていく過程で女性たちが、自信をつけてきた結果だと考えられる。まだ制作のみで、今後、販売を行っていく予定。

## ■その他の活動報告

### <活動実績と成果>

- ・任意 NPO「チーム ピース チャレンジャー」(2014 年 4 月、11 月、2015 年 2 月)、合同会社 nimai-nitai(2014 年 11~2 月)が現地を訪問し、技術指導、および、生産を行った。それぞれ、約 55 種類 1150 点、約 15 種類 1950 点を生産し、日本でイベント出展、卸売り等で制作した商品の販売を行っている。
- ・アシュラム内にショーケースを設置。制作したぬいぐるみや衣類を展示して、注文を受けられるように、また受講生の募集にもつなげていく予定。
- ・2015 年 3 月のスタディツアー参加者から、もっと透明性を高めるために生産をしている女性たちをウェブサイトで紹介してはどうかという提案を受け、実現に向けて 2015 年度取り組む。

## ■運営上の評価と課題

- ・習得した技術を活かした上で、次のステップ「寄付に頼らない」自立運営が今後の課題
- 「受注→生産→販売→事業収入」までの流れをつくること。

---

## ➤ 診療所

---

### ■事業の概要

スジャータ村周辺の村びとたちの健康促進のため、週3回、医師がボランティアで、ホメオパシーの診療を行う。運営費の捻出が難しく、また薬品費の高騰により、プロジェクトの継続も危ぶまれたが、現地のプロジェクト継続の要望が強く、予算を大幅に削減して運営。

### ■事業運営体制

運営体制	(日 本)事業担当1名 (インド)医師2名、看護師2名、処方箋スタッフ2名、受付2名
予算規模	年間事業費 301,596円(NPWT 事業費) ※当会寄付額は「学校」欄参照
主要財源	一般寄付他

### ■2014年度の実績と成果

#### (1)地域密着型の診療を実施

##### ①無料診療所

###### <活動実績>

医師2名、看護師2名、処方箋スタッフ2名、受付2名の計8名が、週3日、月・水・金曜日に診療所内で定期的な無料相談・診療を行う。診療所周辺の村に住む乳児から高齢者まで、幅広い年齢の住民が利用。累計約9430名の患者が来院した。

###### <成果>

今まで病院に行けなかった村人が診療できる様になったことで、村周辺の死亡率軽減に繋がった。

ホメオパシー療法という天然の処方箋には副作用がなく、西洋医学の処方箋よりも効果的に治療することができた。

---

## ➤ 植林・有機農業

---

### ■事業の概要

乾燥・干ばつ被害が広がるビハール州南部に林や森を取り戻し、生物多様性を回復させるとともに地球温暖化を防止する。また、植林と有機農業の混合実績によりアグロフォレストリー(森をつくる農業)のモデルケースとなることを目的としたプロジェクト。開始から3年がたち、マンゴーが実るようになり、その他の木々も順調に育ってきている。植林地を動物侵入による被害から守るため、柵の建設を開始している。有機農業の畑からは、農作物の収穫量も増えてきている。

### ■事業運営体制

運営体制	(日 本)事業担当1名 (インド)事業担当1名
予算規模	年間事業費
主要財源	東洋ゴムグループ、環境保護基金、ピースロード鎌倉

### ■2014年度の実績と成果

#### (1) 植林・食物育成を実施

##### ① 植林プロジェクト

###### <活動実績>

2014年4月～2015年3月実施

7エーカーの畑に、マンゴー、プラム、ライチ、ニーム、ベリーなど17種類の木々を植林し栽培を行った。

(東洋ゴムグループ環境基金、環境保護基金、ピースロード鎌倉 協力)

###### <成果>

ほとんどの木が順調に成長し、マンゴーに関しては、280Kg(2015年5月収穫)を収穫できた。

##### ② 有機農業プロジェクト

###### <活動実績・成果>

2014年4月～2015年3月実施

トマト、ナス、スイカ、白かぼちゃ、豆類を栽培。昨今のインドで増加している遺伝子組み換え農業は、健康に害を与える危険性があるものの高い収穫率を出せると各地で広がっている。

その危険性に警鐘を鳴らすため、このプロジェクトでは、在来種の無農薬農業を実践した。肥料には、ニームなどの天然防虫草や、ミミズと牛糞を配合して作る天然肥料を使用している。

#### (2) 収穫に向けての対策

##### レンガ塼建設プロジェクト

###### <活動実績>

2014年4月～2015年3月実施

この地域には、牛、パツファロー、豚、イノシシ、やぎなどの動物がたくさん生息しているため、植林地が動物に荒らされやすい傾向がある。その対策とし、現在、レンガ壁を建設中。

###### <成果>

今年度は、入り口の門、1辺のレンガ壁を完成させた。

# 【2014年度 事業報告（日本）】

## ▶ 広報

### ■事業の概要

既存の支援者、潜在的支援者へアプローチするため、ウェブサイト、SNSの運用、チラシ等を作成し、現地の様子を伝えること、ニランジャナセワサンガの認知度を高めること、イメージアップを図ることを目的として活動。2014年度は、5月にテレビでニランジャナスクールが取り上げたことによる反響が大きかった。

### ■事業運営体制

運営体制	広報担当1名
主要財源	一般寄付(個人・団体)他

### ■2014年度の実績と成果

#### <実績と成果>

#### (1)対象者:既存支援者

支援者への説明責任を果たすこと、信頼・共感できる情報を提供し、支援の必要性を伝えることを目的とし、「Niranjana Letter」を発行した。その際、初めての試みとして募金チラシを同封。突発的に発生する寄付の必要性を訴えた。

#### ①会報「Niranjana Letter vol.17」(2014年5月12日発行)+Ready For?募金チラシ

配布数:350部 募金額120万円

#### ②会報「Niranjana Letter vol.18」(2014年11月12日発行)+クリスマス募金チラシ

配布数:350部 募金額:25.7万円

#### (2)対象者:潜在支援者

#### ①ウェブサイト

団体の活動内容などがより伝わりやすいものになるよう、2014年度中のリニューアルを目指してきたが、予想以上にテキスト作成や素材集めに時間を要し、やむなく延期。2015年3月のスタツア参加者のひとりが、帰国後、精力的に協力してくれ、2015年6月のリニューアルオープンを目指す。

#### ②ソーシャルメディアの活用(2015年3月31日現在)

Facebook ページ いいね! 497件(2013年345件より、152件増、伸び率44%)

男女比 女性60%、男性40% (FB全体 女性46%、男性54%)

年齢層 18~24歳33%、25~34歳28%

・比較的若い層の女性からのアクセスが多く、現地情報やスタディツアーの告知で頻繁に投稿していた2014年6月のアクセス数が最も多かった。

#### ③メディア

2014年5月に朝の情報番組「スッキリ!」でニランジャナスクールが取り上げられ、放送直後から、スタディツアーへの参加問合せ、企業からの支援問合せ等が複数あった。

#### <課題>

- ・ウェブサイトのリニューアルオープン(2015年6月目標)
- ・ブログとソーシャルメディアの活用方法
- ・団体イメージの統一(団体紹介パンフレット、封筒、名刺等)

---

## ▶ 支援者サービス

---

### ■事業の概要

年に 回、支援者及び協力者へ、ニュースレターや子ども達の手作りカードを発送。サポーターがインド支援に関わることを通して、現地の状況を知ってもらうことは勿論、子ども達との交流を楽しんでもらうことを目的とするサービス。

### ■事業運営体制

運営体制	支援者サービス担当 1 名
主要財源	一般寄付(個人・団体)他

### ■2014 年度の実績と成果

<実績と成果>

#### (1)サポーターへのニュースレター「Niranjana Letter」発行

2014 年 5 月、11 月の 2 回、支援者へ現地の子ども達の様子や各プロジェクトの進捗状況、日本での受賞の様子、イベントのお知らせ、ボランティア募集などを兼ねた広報誌を会員及び協力者に向けて発送した。

#### (2)現地からのクリスマスカード発送

2014 年秋、2 ヶ月かけて現地の児童が支援者に対しクリスマスカードを約 300 枚作成し、支援者のもとに届けた。

#### (3)会員数(2015 年 3 月現在)

- ①3,000 円プロジェクト 120 口(2013 年度 77 口、伸び率 150%)
- ②ニランジャナ支援プロジェクト 65 口(2013 年度 60 口、伸び率 108%)
- ③学費サポートプロジェクト 84 口(2013 年度 79 口、伸び率 106%)
- ④孤児の里親プロジェクト 44 口(2013 年度 45 口、伸び率 97%)

---

## ▶スタディツアー事業

---

### ■事業の概要

インド・ビハール州ニランジャナスクールでの授業ボランティアや、近隣の村への訪問などを通し現地の住民たちと触れ合うことで、参加者の見聞を広めるとともに、現地での様々な体験を通じて、児童やスタッフと国境を越えた関係性を築くことを目的としたプログラムである。

### ■事業運営体制

運営体制	事業責任者 1 名、コーディネーター 2 名、インターン 2 名
予算規模	年間事業費 4,911,760 円
主要財源	ツアー参加費

### ■2014 年度の実績と成果

#### (1)夏のスタディープログラム

##### <実績と成果>

2014 年 8 月 2～9 月 13 日実施

参加者： 18 名 従事者：引率者 2 名、コーディネーター 2 名

過去最多の 18 名の参加者が集まり、日本の文化を伝える授業や、平和について考える授業、家の修理の手伝い、現地の学生とのディスカッション、物乞いインタビューなど、様々なプログラムが実施された。

##### <課題>

参加者が定員を大幅に上回ったことで、スタッフの危機管理対策がとりにくくなった。

今回は何事もなかったが、本格的な危機管理マニュアルの作成や、人数制限を見直す必要があると考える。

#### (2)春のスタディープログラム

##### <実績と成果>

2015 年 3 月 7 日～3 月 21 日実施

参加者： 9 名 従事者：引率者 3 名、コーディネーター 2 名

参加者に教師志望の大学生が多かったこともあり、主に学校や子ども達に関するプログラムへの希望者が目立った。自らでつくるプログラムの内容も、ジェンダー問題や環境問題についてなど、幅広いものとなった。

ツアーを通じて、国際協力に興味を持つ参加者も現れた。

##### <課題>

定員を少なめに設定したが、直前のキャンセルが多発し、参加者が定員数を下回った。

周知方法やツアー内容、価格を見直す必要があると考える。

---

## ➤ イベント事業

---

### ■ 事業の概要

様々なイベントへの実行委員への参加及びブース出店を通し、普段は活動に参加していない多くの人を巻き込むことを目的とした事業部。売り上げが収益に繋がるだけでなく、団体のPRにも繋がることから、今後、さらに力を入れて人員を増やす必要がある。

### ■ 事業運営体制

運営体制	事業担当 2 名
予算規模	年間事業費 294,477 円(事業収入 ASIANPUJA 除く)
主要財源	一般寄付(個人・団体)他

### ■ 2014 年度の実績と成果

#### <実績と成果>

2014 年度は、下記イベントに参加、あるいはイベントを主催し、活動について知ってもらったいい機会になった。

- ・2014 年 5 月 「アースデイ@はまでらこうえん 2014」出店参加
- ・2014 年 9 月 「ASIAN PUJA in 高津宮 2014」実行委員参加及び出店参加
- ・2015 年 1 月 トークイベント「インドの子どもたちの未来を創った大学生たちの決意」主催
- ・2015 年 2 月 「One Wold Festival 2014」出店参加

- ・毎月第 3 火曜日 Shama から世界へ(ニランジャナ関係団体や関心のある人が集まって交流)

#### <課題>

当日ボランティアへの呼びかけを、今より事前に行う必要がある。そのためにも事前から、スタッフ同士の情報共有を年密に行っていく必要がある。

---

## ➤ その他

---

### ①理事会、その他役員会の開催状況

#### 2014 年度第 1 回理事会

【日 時】 2014 年 5 月 13 日(火)

【場 所】 大阪市西区北堀江 I-3-7 倉商ビル B1 階インドレストラン Shama

【出席者数】 理事 5 名 オブザーバー 3 名

#### 2014 年度第 2 回理事会

【日 時】 2014 年 7 月 8 日(火)

【場 所】 大阪市西区北堀江 I-3-7 倉商ビル B1 階インドレストラン Shama

【出席者数】 理事 名 オブザーバー 名

#### 2014 年度第 3 回理事会

【日 時】 2014 年 8 月 12 日(火)

【場 所】 大阪市西区北堀江 I-3-7 倉商ビル B1 階インドレストラン Shama

【出席者数】 理事 6 名 オブザーバー 2 名

#### 2014 年度第 4 回理事会

【日 時】 2014 年 10 月 14 日(月)

【場 所】 大阪市西区北堀江 I-3-7 倉商ビル B1 階インドレストラン Shama

【出席者数】 理事 13 名 オブザーバー 2 名

### ②総会の開催状況

#### 第2回臨時総会

【日 時】 2014 年 6 月 3 日(火) 20:00 から 20:50 まで

【場 所】 大阪市西区北堀江 I-3-7 倉商ビル B1 階インドレストラン Shama

【出席者数】 全正会員数 28 名 うち 出席者数 17 名(うち委任状出席 6 名)

【議案】

第1号議案 監事選任の件

第2号議案 その他

#### 第4回通常総会

【日 時】 2014 年 6 月 22 日(日) 15:30 から 17:00 まで

【場 所】 大阪市西区北堀江 I-3-7 倉商ビル B1 階インドレストラン Shama

【出席者数】 全正会員数 28 名 うち 出席者数 18 名(うち委任状出席 7 名)

【議案】

第1号議案 2013 年度事業報告書 承認の件

第2号議案 2013 年度活動計算書 承認の件

第3号議案 監査報告書承認の件

第4号議案 2014 年度事業計画書 承認の件

第5号議案 2014 年度活動予算書 承認の件

第6号議案 2014 年度追加役員選任の件

第7号議案 その他